

いま、災害への備えを—「もしも」のときのために

県においては、2年連続で大きな豪雨災害に見舞われ、家屋や事業所、道路、河川、農地、林地などに甚大な被害が発生しました。県では、被災者の生活再建のみならず、河川や道路などの公共土木施設や農地、農業用施設の復旧を加速化させ、一日も早い復旧・復興に向け、引き続き全力で取り組んでいきます。

災害は、「とき」「ところ」「ひと」を選びません。被害を最小限に抑えるためには、行政による「公助」はもとより、一人一人が自分の安全を守る「自助」、地域で助け合う「共助」が大事です。また、日頃から防災意識を持ち、災害に備えるとともに、地域ぐるみで防災体制を確立していくことが重要です。

平成29年7月九州北部豪雨から2年—被災地のいま

発災直後

復旧後

河川



大雨により増水し、護岸が崩壊した桂川



復旧工事により、護岸などを整備

道路



大雨により、道路擁壁が崩壊（応急工事後）



復旧工事を行い、整備された国道500号

農地



大雨により、ビニールハウスが倒壊



現在は移転し、イチゴの栽培を再開

Topic

元気に生産中! 朝倉市黄金川の「スイゼンジノリ」

スイゼンジノリとは、全国で唯一、朝倉市にある黄金川にのみ自生する希少な淡水ノリのこと。江戸時代、秋月藩主にも献上されたという歴史を持つ食材ですが、平成29年7月九州北部豪雨により、黄金川が増水し、スイゼンジノリや川に設置した網が流される被害を受けました。

「設備も破損し心配されましたが、県水産海洋技術センターの協力もあり、今年の収穫は順調です」と語るののは、遠藤金川堂代表の遠藤淳さん。

遠藤さんにとって黄金川は、幼い頃魚を捕まえて遊んだ思い出の川。清らかな水質と豊富な水量を守ることがスイゼンジノリの保全につながると、毎日清掃活動にも励んでいます。「これまで幾度となく水害を乗り越えてきた地域の宝を次世代に渡していきたい」と未来へ希望を持ち続けています。



遠藤金川堂代表の遠藤淳さん。1793年の創業以来、スイゼンジノリの栽培、加工販売を行っている



生タイプの「川茸」と刺身こんにやくの「黄金川」を販売中。プルプルとした食感の「川茸」は、酢の物やお吸い物に使用するのがおすすめ

問い合わせ：川茸元祖 遠藤金川堂 ☎0946-22-2715 ファクス0946-22-0707